

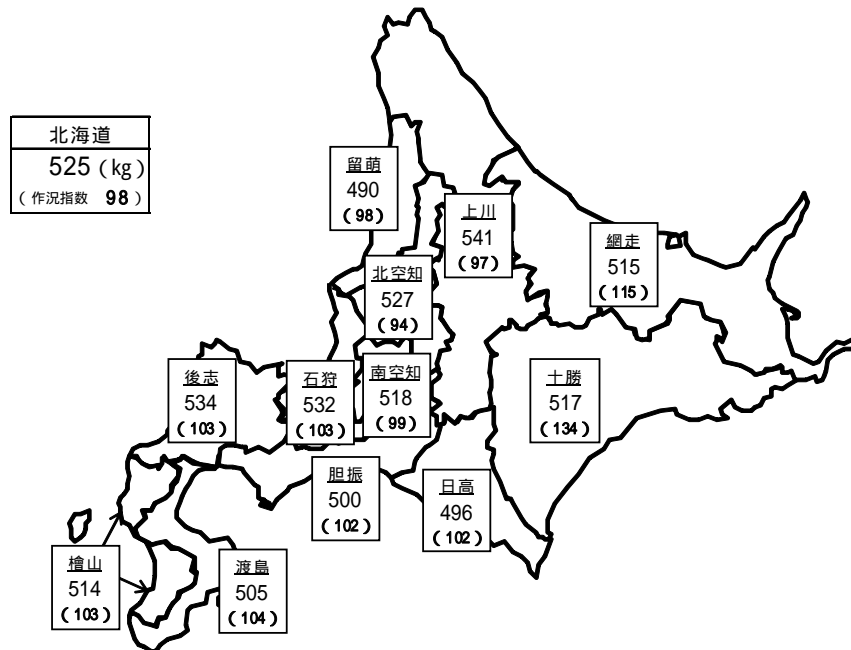
## 平成22年産水稻の作付面積及び9月15日現在における作柄概況 (北海道)

- 10a 当たり予想収量は525kg (作況指数 98) の見込み -

### 【調査結果の概要】

- 1 北海道における平成22年産水稻の作付面積(青刈り面積を含む)は11万5,100haで、前年産に比べて600haの増加が見込まれる。  
うち、主食用作付見込面積は、11万2,400haが見込まれる。
- 2 9月15日現在における水稻の作柄は、10a 当たり予想収量525kg(作況指数 98)が見込まれる。
- 3 主食用作付見込面積に10a 当たり予想収量を乗じた予想収穫量(主食用)は59万100tが見込まれる。

図 作柄表示地帯別10a 当たり予想収量(9月15日現在)



平成22年産水稻作付面積及び9月15日現在の10a 当たり予想収量(北海道)

区分	作付面積 (青刈り面積を含む)			10a 当たり 予想収量	(参考)			
	前年産との比較				主食用作付 見込面積	予想収穫量 (主食用)	10a 当たり 平年収量	作 況 指 数
	対差	対比						
	ha	ha	%	kg	ha	t	kg	
北海道	115 100	600	101	525	112 400	590 100	535	98

主食用作付見込面積とは、水稻作付面積(青刈り面積を含む)から、需給調整カウントとなる米穀等(加工用米、新規需要米等)の面積を除いた面積(見込み)である。  
作況指数とは、10a 当たり平年収量に対する10a 当たり予想収量の比率である。  
この調査は、その後の気象が平年並みに推移するものとして作柄予測を行ったものである。したがって、今後の気象条件により作柄は変動することがある。

## 【調査結果】

### 1 作付面積

平成22年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む）は11万5,100haで、前年産に比べて600haの増加が見込まれる。

これは、戸別所得補償モデル対策の実施により、加工用米及び新規需要米への取り組みが進み、他作物からの転換等が行われたためである。

なお、水稻作付面積（青刈り面積を含む）から、需給調整カウントとなる米穀等（加工用米、新規需要米等）を除いた主食用作付見込面積は、11万2,400haが見込まれる。

### 2 作柄の概況

9月15日現在における北海道の水稻の作柄は、10a当たり予想収量525kg（作況指数98）が見込まれる。

これは、登熟期の良好な気象経過によって稔実や粒の充実は平年を上回り、登熟は「良」が見込まれるものの、穂数が6月上旬以降の高温の影響により分けつ発生期間が短縮され少なくなったことから、全もみ数が「少ない」となったためである。

なお、主食用作付見込面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は59万100tが見込まれる。

## 【統計表】

平成22年産水稻の作付面積、9月15日現在の10a当たり予想収量及び作柄概況

区分	作付面積 (青刈り面積を含む)			10a当たり 予想収量	(参考)		穂数 の多少	1穂当たり もみ数の 多 少 (平 年 比 較)	全もみ数 の多少	登 熟 の良否
	前年産との比較				10a当たり 平年収量	作況 指数				
	対差	対比	%							
ha	ha	%	kg	kg	= /					
北海道	115 100	600	101	525	535	98	少 ない	や や 多 い	少 ない	良
石 狩	7 810	60	99	532	518	103	少 ない	や や 多 い	や や 少 ない	良
南空知	23 500	100	100	518	525	99	少 ない	や や 多 い	や や 少 ない	や や 良
北空知	29 200	200	101	527	558	94	少 ない	や や 多 い	少 ない	や や 良
上 川	30 700	300	101	541	555	97	少 ない	平 年 並 み	少 ない	良
留 萌	4 640	10	100	490	499	98	少 ない	多 い	少 ない	良
渡 島	3 050	40	101	505	486	104	や や 少 ない	や や 多 い	平 年 並 み	や や 良
檜 山	4 280	80	102	514	500	103	や や 少 ない	や や 多 い	平 年 並 み	や や 良
後 志	5 060	50	101	534	517	103	少 ない	多 い	や や 少 ない	や や 良
胆 振	3 960	90	102	500	488	102	少 ない	や や 多 い	や や 少 ない	良
日 高	1 720	40	98	496	484	102	や や 少 ない	や や 多 い	平 年 並 み	平 年 並 み
十 勝	19	1	106	517	386	134	や や 少 ない	多 い	多 い	良
網 走	1 200	70	94	515	447	115	少 ない	や や 多 い	平 年 並 み	良

注：1）ラウンドの関係で、計と内訳が一致しないことがある。

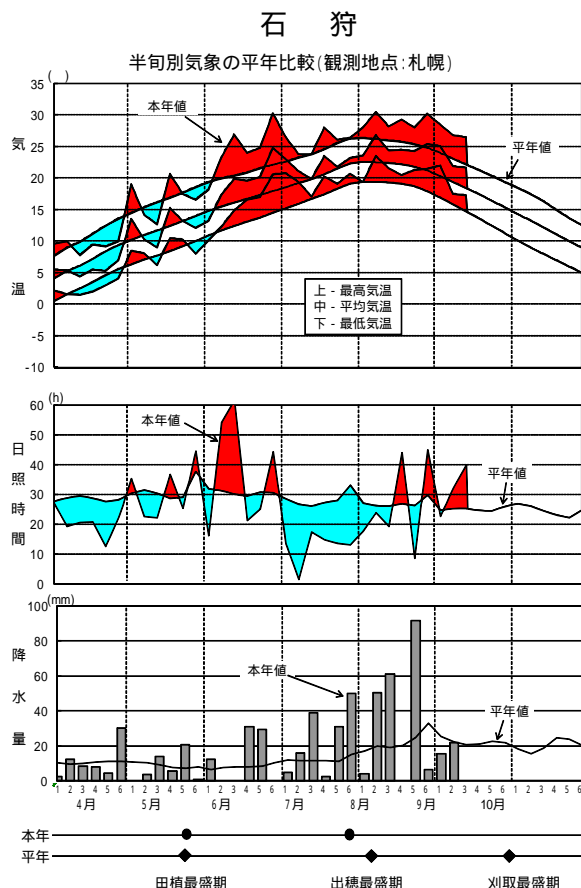
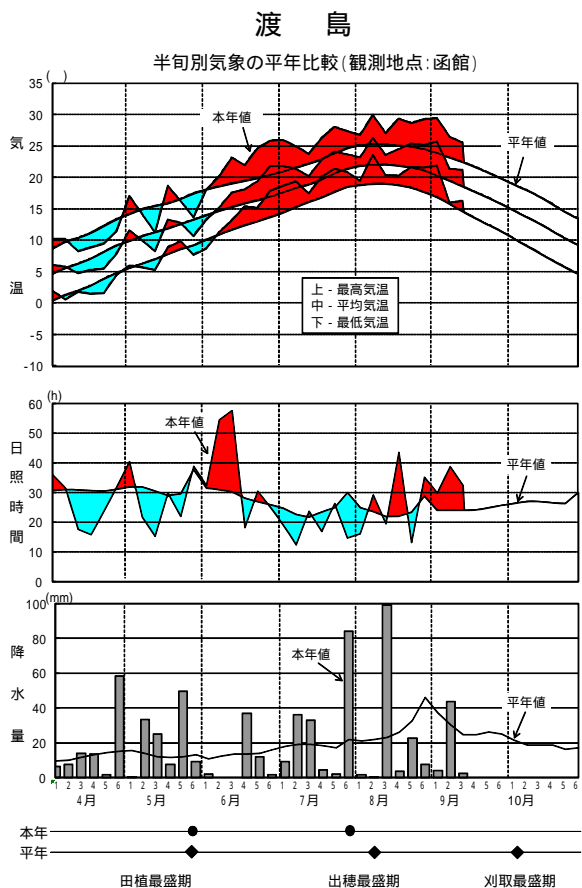
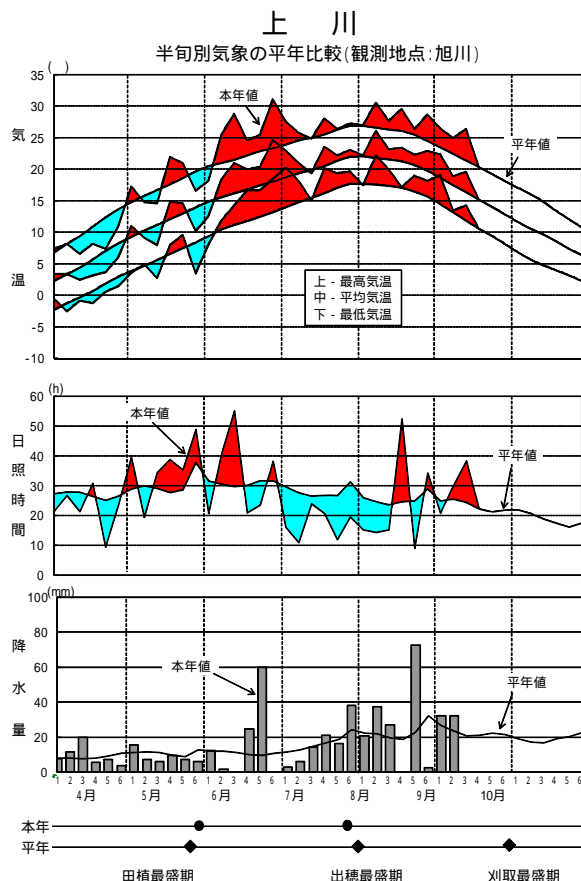
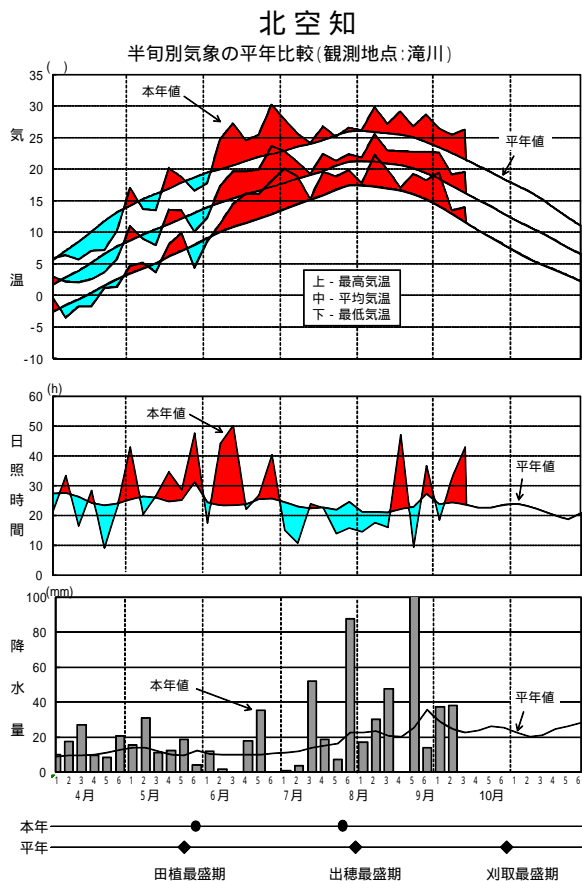
2）表中の「」は減少を示す。

#### 水稻調査結果の利活用

- ・ 「主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律」に基づき毎年定めることとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針、及び米穀の需給見通しのための基礎資料
- ・ 「食料・農業・農村基本計画」における生産数量目標の策定及び達成状況の確認のための基礎資料
- ・ 農業災害補償法に基づく農作物共済事業において共済基準収穫量算定のための基礎資料
- ・ 水田・畑作経営所得安定対策（品目横断的経営安定対策）において収入減少影響緩和交付金算定のための基礎資料

# 【関連するデータ、情報】

## 1 気象経過と生育ステージ（主な観測地点）



資料：「アメダス気象データ」

## 2 水稲の年次別推移（北海道）

年 産	作 付 面 積 (青刈り面積を含む)		10 a 当 たり 収 穫 量	収 穫 量	作 況 指 数	10 a 当 たり 平 年 収 量
	う ち、子 実 用					
	ha	ha	kg	t		kg
平成 12	134 900	134 900	540	729 100	103	526
13	123 100	122 000	526	642 100	100	526
14	121 000	120 200	482	579 800	91	528
15	117 900	117 800	385	454 000	73	528
16	120 500	120 500	518	623 900	98	528
17	119 100	119 100	573	682 600	109	528
18	115 500	115 400	558	643 900	105	530
19	116 100	116 000	520	603 200	98	532
20	114 600	114 600	565	647 500	106	534
21	114 500	114 400	475	543 400	89	535

### 【調査の概要】

#### 1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の作付面積調査及び水稲調査の中の作柄概況調査として実施し、水稲の作付面積、生育・作柄状況を明らかにすることにより、生産対策、需給調整、経営安定対策、技術指導等の農林水産行政推進のための資料とすることを目的としている。

#### 2 調査対象数

- (1) 作付面積調査 標本単位区：1,591単位区 巡回・見積り：179市町村  
 (2) 作柄概況調査 作況標本筆：630筆 作況基準筆：53筆  
 巡回・見積り：179市町村

#### 3 調査事項

水稲の作付面積、は種期の遅速、田植期の遅速、活着の良否、草丈の長短、茎数の多少、穂数の多少、もみ数の多少等の生育状況、登熟状況、被害状況、耕種状況。

#### 4 調査期間

- (1) 作付面積調査：7月15日現在  
 (2) 作柄概況調査：9月15日現在

#### 5 調査方法

- (1) 作付面積調査  
 調査は、標本単位区に対する職員及び統計調査員による実測調査並びに職員による巡回・見積りにより行った。  
 (2) 作柄概況調査  
 調査は、作況標本筆、作況基準筆及び被害調査筆に対する職員による実測調査並びに作況基準筆結果に基づく巡回・見積りにより行った。

#### 6 集計方法

- (1) 作付面積調査  
 対地標本実測調査結果及び巡回・見積り結果により取りまとめている。  
 (2) 作柄概況調査  
 調査事項について、作況標本筆調査結果を集計し、作況基準筆結果に基づく巡回・見積りにより補完して取りまとめている。

## 7 用語の解説

- (1)「青刈り」とは、子実の生産以前に刈り取られて飼肥料用などとして用いられるもの（WCS用稲、わら専用稲等を含む）のほか、飼料用米、バイオ燃料用米を指す。
- (2)「穂数の多少」とは、1㎡当りに出穂したすべての穂の数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (3)「1穂当たりもみ数の多少」とは、1穂についているすべてのもみの平均数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (4)「全もみ数の多少」とは、1㎡当たりのすべてのもみ数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (5)「登熟の良否」とは、登熟（開花、受精から成熟期までのもみの肥大、充実）が平年と比較して良いか悪いかを表しており、良、やや良、平年並み、やや不良、不良の5段階で表している。
- (6)上記の平年比較とは、過年次の作況標本筆結果から作成した各収量構成要素（1㎡当たり穂数等）の平年値との比較である。

多 少 (良 否)	少 ない (不 良)	やや少 ない (やや不 良)	平年並み	やや多 い ( やや良)	多 い (良)
対平年比	94%以下	95～98%	99～101%	102～105%	106%以上

- (7)「作況指数」とは、10a当たり平年収量に対する10a当たり予想収量の比率である。
- (8)10a当たり平年収量とは、水稻の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合や作付変動等を考慮し、実収量のすう勢をもとに作成したその年に予想される10a当たり収量をいう。

## 8 作柄表示地帯

北海道における作柄表示地帯は、下表のとおりである。

作柄表示地帯	対 象 地 域
石 狩	札幌市、江別市、千歳市、恵庭市、北広島市、石狩市、石狩振興局管内
南 空 知	夕張市、岩見沢市、美瑛市、三笠市、空知総合振興局管内のうち南幌町、由仁町、長沼町、栗山町、月形町
北 空 知	芦別市、赤平市、滝川市、砂川市、歌志内市、深川市、空知総合振興局管内のうち奈井江町、上砂川町、浦臼町、新十津川町、妹背牛町、秩父別町、雨竜町、北竜町、沼田町、上川総合振興局管内のうち幌加内町
上 川	旭川市、稚内市、士別市、名寄市、富良野市、上川総合振興局管内のうち鷹栖町、東神楽町、当麻町、比布町、愛別町、上川町、東川町、美瑛町、上富良野町、中富良野町、南富良野町、占冠村、和寒町、剣淵町、下川町、美深町、音威子府村、中川町、留萌振興局管内のうち天塩町、宗谷総合振興局管内
留 萌	留萌市、留萌振興局管内のうち増毛町、小平町、苫前町、羽幌町、初山別村、遠別町
渡 島	函館市、北斗市、渡島総合振興局管内
檜 山	檜山振興局管内
後 志	小樽市、後志総合振興局管内
胆 振	室蘭市、苫小牧市、登別市、伊達市、胆振総合振興局管内
日 高	日高振興局管内
十 勝	釧路市、帯広市、十勝総合振興局管内、釧路総合振興局管内
網 走	北見市、網走市、紋別市、根室市、オホーツク総合振興局管内、根室振興局管内

## 9 その他

統計数値については、以下の方法によって四捨五入しており、合計と内訳の計が一致しないことがある。

原 数		7けた以上 (100万)	6けた (10万)	5けた (万)	4けた (1 000)	3けた以下 (100)
四捨五入するけた(下から)		3けた	2けた		1けた	四捨五入しない
例	四捨五入する前	1 234 567	123 456	12 345	1 234	123
	四捨五入した数値	1 235 000	123 500	12 300	1 230	123

## 10 利用上の注意

本調査(9月15日現在)は、その後の気象が平年並みに推移するものとして作柄予測を行ったものである。したがって、今後の気象条件により作柄は変動することがある。

この統計調査結果は、北海道農政事務所ホームページ中の「統計情報」-「農林水産統計」(分類は「農産物の生産・流通」)に掲載しています。

ホームページアドレス <http://www.maff.go.jp/hokkaido/toukei/kikaku/sokuho/index.html>

### 【問い合わせ先】

農林水産省 北海道農政事務所 統計部

本公表資料に関する問い合わせ先

生産流通消費統計課 生産統計第2係

電話：(011) 642-5619(ダイヤルイン)

その他農林水産統計資料に関する問い合わせ先

統計企画課 企画係

電話：(011) 642-5609(ダイヤルイン)